2018



特別展「新羅郡の時代を探る」

展示解説パンフレット

和光市教育委員会

この度、これまでの発掘調査の成果により新羅郡 時代の遺構・遺物が出揃い始めたことから、本展示 会「新羅郡の時代を探る」を企画・開催する運びと なりました。

この展示会をとおして、新羅郡の歴史や重要性が 広く伝わるとともに、文化財に慣れ親しんでいただ くきっかけとなれば幸いです。

本展の開催に当たり、朝霞市・志木市・新座市の 各教育委員会の皆様に多大なるご協力を賜りました こと心よりお礼申し上げまして、あいさつとさせて いただきます。

和光市教育委員会教育長 戸部 惠一

朝霞市教育委員会

この度開催されます、特別展「新羅郡の時代を探る」は、各市が行ってきた発掘調査で得られた資料を基に、新羅郡が置かれていた奈良・平安時代を探ってみようという試みです。

新羅郡は、朝霞・志木・和光・新座の四市とその 周辺地域で構成され、古代からつながりのある四市 共同の展示が開催されることは、大変意義深いこと と感じております。

今回の展示が四市の奈良・平安時代解明の一助に なれば幸いでございます。

朝霞市教育委員会教育長 三好 節

例 言

- 1 本冊子は特別展「新羅郡の時代を探る」の展示解説パンフ レットです
- 2 本展示は和光市教育委員会が主催し、朝霞市教育委員会・ 志木市教育委員会・新座市教育委員会・(公財) 和光市文化振 興公社と共催するものです。
- 3 展示構成、展示内容と本パンフレットの内容は同一ではありません。
- 4 展示会場と展示期間は次のとおりです。
 - ◇展示会場:和光市民文化センター(サンアゼリア) 展示ホール
 - ◇展示期間:平成30年11月15日(木)~12月2日(日)
- 5 展示期間中に記念シンポジウムを次のとおり開催します。
 - ◇開催場所 和光市民文化センター 小ホール
 - ◇11月24日(土)
 - <第Ⅰ部> 基調講演

「武蔵国新羅郡誕生の歴史的背景について」

講師:宮瀧交二氏(大東文化大学文学部教授)

<第Ⅱ部> 新羅琴と邦楽演奏

演奏: 久本桂子氏(日本音楽集団) ほか

<第Ⅲ部> 基調報告 新羅郡域の遺跡

「朝霞市の遺跡」 照林敏郎氏(朝霞市教育委員会) 「志木市の遺跡」 大久保聡氏(志木市教育委員会) 「新座市の遺跡」 川畑隼人氏(新座市教育委員会) 「和光市の遺跡」 鈴木 一郎(和光市教育委員会)

- ◇11月25日(日)
 - <第IV部> 基調報告 新羅郡関連の状況

「中武蔵の土器様相 - 須恵器・土器からみた新羅郡 - 」

講師:根本靖氏(所沢市教育委員会)

「高麗郡建郡の背景」

講師:中野高行氏(日本高麗浪漫学会理事)

「幡羅郡と郡家跡」

講師:知久裕昭氏(深谷市教育委員会)

< V部> 討論 新羅郡の時代を探る

- 6 本パンフレットに掲載している写真のうち、特に写真提供 機関を記していないものは当課職員が撮影したものです。
- 7 展示会の開催に当たり、下記の皆様・機関に多大なご協力を賜りました。

記して御礼申し上げます。(順不同・敬称略)

- ・ 埼玉県さきたま史跡の博物館 (公財)埼玉県埋蔵文化財 調査事業団 (公財)横浜市ふるさと歴史財団
- 朝霞市教育委員会 志木市教育委員会 新座市教育委員会 所沢市教育委員会 深谷市教育委員会
- (公財)和光市文化振興公社
- · 大東文化大学 和光市立新倉小学校
- ・ 大木さおり 大久保聡 尾形則敏 加藤恭朗 加藤秀之 川畑隼人 斉藤 純 齋藤欣延 笹川紗希 斯波 治 知久裕昭 照林敏郎 徳留彰紀 中野高行 根本 靖 野澤 均 坂野千登勢 宮瀧交二

志木市教育委員会

朝霞地区四市は、かつて新羅郡と呼ばれる一つの郡を形成していました。今回の特別展は、歴史的につながりのある四市が、合同で郷土の歴史を追求していく試みであり、誠に喜ばしく思います。

志木市からは、市指定文化財である城山遺跡出土の緑釉陶器をはじめ、中道遺跡出土の灰釉陶器、田子山遺跡出土の須恵器など、当時の資料が多く展示されます。

本展において、四市の出土品が一堂に集まり、 新羅郡の歴史に新たな視点が加わることを期待し ます。

志木市教育委員会教育長 柚木 博

新座市教育委員会

この度は展示会にお越しいただき、ありがとうございます。今回のテーマである新羅郡は、新座市の名前の由来であり、古代の朝霞地区にあったとされることから、四市共催で実施される本展示会は、非常に意義深いものであり、大変喜ばしく思っております。

新座市からは、平成32年完成を目標に進めている区画整理事業に伴って、大和田カミ遺跡の最新の出土品を展示いたしました。整理作業中の段階ではありますが、これまでにない成果が上がっておりますので、お楽しみいただければ幸いです。

新座市教育委員会教育長 金子 廣志

目次

奈良・平安	時代	のĪ	武庫	国		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4
新羅琴 •	• •	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4
新羅郡の誕	生	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5
新羅琴の名	手	沙	羅眞	熊		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5
新羅郡の旧	都•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	6
新羅郡から	新座	郡	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	6
現在の朝霞	地区	四ī	おと	展	示	関	連	遺!	跡	O)	分	布		•	•	•	•	•	•	•	7
新羅郡時代	の遺	産	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	8
	和光河	市	8	朝	霞「	†i	10)	志	木ī	†	12	2	親	座	市	1	4			
武蔵国の近	隣郡			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	15
		郡	15	虐	了解	語	1	16													

奈良・平安時代の武蔵国

7世紀の後半ごろから新しい政治の仕 組みが整え始められ、8世紀奈良時代に 入ると、天皇を中心とした国家体制が確 立します。

今の埼玉県・東京都辺りは「武蔵国」 と呼ばれており、さらにいくつかの「郡」 や「里」に分割されました。

国は現在の都道府県、郡や里は、市町 村のような役割をもっていました。



武蔵国地図は「幡羅遺跡と宗教」『シンポジウム郡家の成立と機能 - 幡羅遺跡をめぐる諸問題 - 』より引用・改変(須田 2011]

新羅琴は、朝鮮では伽耶琴と呼ばれ、奈良時代 に新羅から新羅琴師とともに伝来し平安時代まで 用いられた琴です。

新羅楽に用いた12弦の筝で長さは約5尺(約 1.5 m)。尾端部に「羊耳」と呼ばれる緒止めを 差し込んであるのが特徴です。

この新羅琴は正倉院に納められているもので、 当時平安京で新羅琴が使われていたことがわかっ ています。



新羅琴 金泥絵木形 「正倉院宝物検索」より転載

かが、新羅郡の誕生

『続日本紀』によれば、天平宝字 2 年 (758 年) 8 月 「帰 化新羅僧32人、尼2人、男19人、女21人、移武蔵国 閑地、於是始置新羅郡」と記載されています。

これは、もともとは新羅(古代の朝鮮半島にあった国 家)という国出身だった僧侶や尼、男性、女性が武蔵国 に移され、それをきっかけに奈良時代の後半「新羅郡」 という郡ができたということを意味しています。

「新羅郡」は現在の和光市・朝霞市・志木市・新座市 とその周辺地域であろうと言われています。

ら79年の間を記述し、ぐ勅撰の歴史書。797年 資料と知られています。 797年に完成。 、奈良時代の基本年に完成。97年か

「『続日本紀』(延暦十六年〈797〉完成)」▶ ※写真は、明暦三年(1657年)版のもの (国立国会図書館デジタルコレクションより)



さらまくま 新羅琴の名手:沙良真熊

沙良真熊という新羅琴の名人がいました。 宝亀 11年(780年) 渡来人系諸氏族の氏人に対して賜姓が行われた際、沙良(無姓) から広岡造に改姓しています。

『日本文徳天皇実録』によると、弘仁年間(810-824 年)に皇 族や貴族に新羅琴を教えたとあり、地方の新羅系の人々が先祖由 来の芸能で、中央の雅楽寮に登用されたことが伺えます。

新羅郡の旧郡



新羅郡という新しい郡が生まれるまで、この地域は別の郡に属していたと考えられています。新羅郡と接している近隣地域の豊島・足立・入間郡が候補として現在あげられており、その中で最も有力な候補は、「豊島郡」です。

豊島郡には広岡郷(現在の東京都板橋区・練馬区あたり)という地名があり、広岡という地名にちなむ広岡造という氏族(沙良真熊)が、新羅郡内に住んでたことが『続日本紀』によりわかっています。新羅郡と豊島郡は密接な関係があったとされています。

◀「『続日本紀』(延暦十六年〈797〉完成)」 ※写真は、明暦三年(1657年)版のもの (国立国会図書館デジタルコレクションより)

新羅郡から新座郡

10世紀中期に完成したとされる『和名類聚抄』という 当時の百科辞書に、各地の国や郡が記載される中で、武蔵 国の中に「新羅郡」は見当たらなくなり、代わりに「新座 郡」が姿を見せます。

この「新座郡」の読み方に「爾比久良」と当てられており、当時「にいくら」と呼ばれていたことがわかります。 現在の和光市新倉や下新倉や新座市の地名は、この「新座郡」に由来すると考えられます。

> 「『和名類聚抄』(承平年間〈931-938〉)」 ※写真は、渋川清右衛門による古刊本。 年代不詳(貞享年間以降か) (和光市下新倉図書館所蔵)



現在の朝霞地区四市と展示関連遺跡の分布





和光市



概要

和光市では、奈良時代の住居跡が吹上遺跡で、仏ノ木遺跡ではお墓が確認されています。

平安時代では、集落跡が確認されており、花ノ木遺跡から えんじん
清をしていたと考えられて
沈 台遺跡にかけて、大集落が形成されていたと考えられて
います。また、火熨斗や落とし鍵、円面硯、銅製巡方が出土
するなど注目されています。

ふきあげ 吹上遺跡





すぇ きっき 須恵器坏

須恵器とは、古墳時代以降、朝鮮半島から製作 技術が伝わり生産が始まりました。

1,000 度以上の高い温度の窯で焼かれ、青灰色で硬質です。



はじきつき土師器坏

土師器とは、弥生時代の流れをくみ酸化炎焼成です。茶褐色でやや柔質が特徴です。

でぼうやま午王山遺跡



須恵器坏



底面





^{みね みねまえ} 峯・峯前遺跡





墨書「守」力 灰釉陶器皿



ぼくしょ 墨書土器

土器の裏面や側面に、墨で文字などが書 かれている土器のことです。

役人や地名など所有者に関する情報や祭 祀的な意味、文字の練習で書かれていた りと種類は様々です。

うるしだい 漆台遺跡





須恵器円面硯



出土状況

のと推測されます。 この時代に硯を使用して文字を書いた人は この円面硯は役人が使用していたも 文字を書くための硯です。



文字を書く古代人のイメージ (和光市デジタルミュージアムれきたまより)

花ノ木遺跡



火熨斗 (古代のアイロン)

東京外かく環状道路の建設に伴い行われた発掘 調査で、全国でもわずか数点しか発見されていな い古代のアイロン=火熨斗が出土しました。

これは、絹を素材とする役人の衣服や朝鮮半島 の民族衣装に使用していたと考えられて います。



出土状況



朝霞市



概要

朝霞市では、奈良時代の住居跡は泉水山・富士谷遺跡や南割・ 西久保遺跡等で出土しています。

平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・溝跡は、向山遺跡や馬堀遺跡で多く確認されており、他にも須恵器・土師器等の土器や刀子・帯の金具等が出土しています。また、稲荷山・郷戸遺跡では、倉庫群と溝が出土しました。これらから大規模な集落の存在が伺えます。

南割・西久保遺跡





須恵器坏・土師器坏

かいやま 向 山遺跡







とうす

刀子は役人を象徴するもので、現代のカッターナイフのようなものです。

紙が貴重で、木簡(木札)が広く使われていた時代、書き間違えた文字を削って修正するために、使用されたと考えられます。

下段は、木質部の破片です。

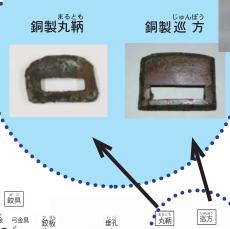






掘立柱建物跡

写真:朝霞市教育委員会





古代の帯

「腰帯」と呼ばれた帯を奈良・平安時代の役人は、儀式 や仕事の時に身に付けていました。銅製丸鞆・銅製巡方は、 帯の飾り金具です。



埼玉県埋蔵文化財センター発行『埋文さいたま第19号』より転載、一部改変



隆平永寶

ぎょうにんづか かねこづかした 行人塚・金子塚下遺跡



須恵器水 瓶



延石



志木市



概要

志木市では、城山遺跡や田子山遺跡が代表的な遺跡で、住居跡・掘立 柱建物跡・土坑群などが検出されています。遺物では土器・鉄製品・銅 製品が出土しています。

その中でも、城山遺跡で出土した「富」と刻まれた銅印や緑釉陶器等は、志木市の指定文化財に指定されており、貴重な資料です。

しろやま 城山遺跡







写真提供:志木市教育委員会

どういん

印面に「冨」の一文字が刻まれている銅印です。 県内唯一の出土です。



りょくゆうとうき緑釉陶器



須恵器坏・土師器甕

中道遺跡



かいゆうとうき

灰釉陶器とは、藁などの植物の灰を原料に した、釉薬を掛けた焼き物です。日常に使われる食器類に使われています。





須恵器坏 (底部全面ヘラケズリ)



須恵器坏 (底部周辺ヘラケズリ)



上面

須恵器耳皿

器の両側が折れていて、耳に似ていることから、 「耳皿」と呼ばれています。

箸置きとして使われ、身分の高い人や神様のお供 えに添えられたとされます。







土師器台付甕



須恵器甕



新座市



概要

新座市では、奈良・平安時代の集落は馬場南遺跡と駒形遺跡で確認されているのみでしたが、最近行われた大和田カミ遺跡の発掘調査で新たに発見されました。

遺跡の発掘調査で新たに発見されました。 大和田カミ遺跡では、須恵器や土師器・瓦等、多くの遺物が出土しています。

大和田カミ遺跡





須恵器坏



須恵器坏



土師器甕



土師器坏



▼左から須恵器坏・皿・高台付椀





丸瓦 写真提供:新座市教育委員会

幡羅郡は、利根川と荒川に挟まれ『和名類聚抄』によれば、北武 蔵最大規模の郡でした。幡羅郡域は、深谷市北東部・熊谷市北西部 に位置しており、古代郡役所跡が発掘調査により検出されています。 郡庁を除く、正倉・館などの施設が発見されており、また郡役所 に寺院跡や祭祀跡を伴う例は、全国で他に2例しかなく貴重です。



幡羅官衙遺跡群 全体図



館に付属する倉庫跡



正倉跡

図・写真提供:深谷市教育委員会

百九十九人,選于武藏國置高麗那馬太宰府 隻相模上総下総常陸下野七國高麗人千七 東更張弛網,你稱聖願許之○辛卯以駿河。甲 高麗郡は、現在の日高市・飯能市を中心に設置され、その後、鶴ヶ島市全域、川越市・入間市・狭山市の一部まで含まれるようになりました。

日高市には、高麗郡の初代郡司の高麗王若光の御霊を祀るために建立された「高麗神社」があります。新羅郡建郡より約40年前、霊亀2年(716年)に関東各地に住んでいた高麗人1,799人を、日高市を中心とする地域に移住させて建郡されました。





▲高麗神社 境界標

◀高麗神社 境内

◄「『続日本紀』(延暦十六年〈797〉完成)」※写真は、明暦三年(1657年)版のもの(国立国会図書館デジタルコレクションより)

でぼうやま 午王山遺跡と新羅王居跡伝承

午王山遺跡は和光市新倉3丁目11番に位置し、「新羅の王(子)が住んでいた」という伝承が残されています。この伝承は、江戸時代に幕府が編纂した地誌『新編武蔵風土記稿』の上新倉村を記載する中に「古跡 新羅王居跡」という項目があり、そこに午王山(牛房山)が新羅の王子の居跡であったという旨の内容が記されていることに由来するものです。

午王山遺跡は弥生時代の環濠集落として注目されており、一部市 有地となっている範囲は、和光市指定文化財(史跡)として指定さ れています。また、出土遺物のうち 121 点は、埼玉県指定有形文 化財として指定されています。

さらに現在、和光市では午王山遺跡の学術上の価値の高さや重要 性から改めて調査を行い、国史跡指定を目指して取り組んでいます。





午王山遺跡出土遺物

新篇武蔵風土記稿 武紀ナリ ヤア賦紀クリ レハ受年 *云農中居房 (明治17年出版)』 =居安甲 モト業朔頃ハハシ云ワ ナ云ト祭ョ此舊ト和ッ ケハ云卯り出き此名か レモも筑カノ家村鈔ノ 上新倉村のうち 詳ッ同太房モルス ナハシ宰ノ元ョメスア ルコ紀賦字此シルルリ ナレー投ニ王 彼好 當昔 シラ韓化カ子等事郡シ ラク奈新 ~居カノ ス人末縄 *跡 祖者 郷羅 「古跡新羅王居跡」 許僧ナコ 先ィ名/ 蒲尼ラリハへ志王 等及ン起京リ木子 十百 + り 都當 +京 二姓是クロ村云コ サ女 村事 新山 ル下 二老+羅田へ向 の部分を抜粋 ノビ王上此ノ 國三 說 ~ = 原 邊頃 =人ナ御役大ノコ リ房と熊フ、

午王山全景